



発行日 平成30年12月7日  
発行 佐世保徳育推進会議(佐世保市教育会内)  
住所 栄町4番11号サンクル1番館2F  
TEL/FAX (0956) 23-2856  
E-mail sasebotokuiku@alpha.ocn.ne.jp

# 徳育



## 「絆」回復の試みとしての徳育

佐世保徳育推進会議 会長 木村 勝彦

佐世保市民の皆様には健やかにお過ごしのことと拝察いたします。  
「徳育通信」第6号の発刊に寄せて、一言ご挨拶申し上げます。

さて平成30年9月29日に開催された「第9回徳育推進フォーラム」では、「新たな一歩のために～徳育推進の歩みを振り返って～」をテーマに、徳育を根付かせようとする活動の中での思いや気づき、現状認識などを確認した上で、佐世保における徳育推進の歩みをより広範で実りあるものにしていくためには何が必要かを語り合いました。台風24号の接近による生憎の天候にもかかわらず、ご来場いただいた多くの皆様と共に、佐世保徳育推進活動の豊かな未来像を考えることができたように思います。

台風と言えば、この夏は日本中が異常高温に苦しみ、地震、大雨、暴風などの相次ぐ自然災害に見舞われて、かけがえのない生命や貴重な財産が数多く失われてしまいました。さらに人格の尊厳をないがしろにし、生命を奪い取ってしまう凶悪犯罪や事件も頻発し、私たち皆が胸を痛めない日はないほどでした。しかし、そのような中でも手を携え合って復興に立ち上がろうとする人々の姿を見て私たちが改めて気づかされたのは、人と人がつながり合っていること、すなわち絆(きずな)の大切さではなかったでしょうか。人は一人では生きていけない、人はつながりの中の存在なのだという当たり前の厳粛な事実、今更ながら思い至らずにはいられません。

そして徳育とはまさに絆回復、人間のつながりを構築するための営みに他なりません。インドのコルカタで貧しい人々の救済に生涯を捧げたマザー・テレサは、自分自身が究極的な飢餓の中にあっても隣人を思いやる人々を称賛しながら、そうした食べ物ゆえの飢えよりも「精神的な飢え」「愛への飢え」の方が根源的な問題なのだと述べております。そして晩年に日本を訪れたマザーは飽食の日本に向かって、次のような言葉を投げかけたのです。「豊かそうに見えるこの日本で、心の飢えはないでしょうか。だれからも必要とされず、だれからも愛されていないという心の貧しさ。物質的な貧しさに比べ、心の貧しさは深刻です。…豊かさの中で貧しさを忘れないで下さい」。

私たちの佐世保徳育推進活動は、こうしたマザー・テレサの呼びかけに対する力強い応答になり得るものではないでしょうか。私たち一人ひとりが身近なところから「精神的な飢え」を克服し、絆を作り上げていくことが徳育の眼目であると思われま

# 第9回 【30年度】 徳育推進フォーラム

平成30年9月29日(土)  
(於) 佐世保市体育文化館コミュニティセンター



## 座談会「徳育推進活動の新たな一歩のために」



佐世保徳育推進会議 会長  
木村 勝彦

この座談会では佐世保市の3名の歴代教育長、鶴崎耕一さん、永元太郎さん、西本眞也さんを、さらに徳育推進会議会員で広報部長の大鳥居祥子さんをお迎えし、徳育推進活動のこれまでの経緯を振り返り、今後さらにこの運動を活発にしていくためには何が必要なのかについて語り合っていました。行政が徳育に関わることの困難さにあえて挑戦し、佐世保徳育推進活動を起ち上げた熱い思いから始まり、これまでの歩みをどのように評価するかについて、時にご自分の家族や地域社会にまつわる心温まるエピソードも交えながらの率直かつユーモラスな語り合いを通して、会場の皆様にも徳育に対する関心を新たにしていくことができたのではないかと思います。佐世保市における徳育推進活動も10年に及ぶ歴史を刻み、さらに充実した将来への新たな一歩が踏み出されなければなりません。市民一人一人が佐世保市のあるべき「まちづくり」の姿をどのように思い描き、実現させようとしていくのか。徳育推進活動の拡大と浸透は、そうしたまちの将来像と展望に深く関わっていることが、今回の座談会で再確認されたように思われます。

佐世保市教育長

西本 眞也



今回、徳育推進フォーラムの座談会に参加させていただき、徳育に対する思いを話すと共に、諸先輩方の貴重なご意見を聞くことができたこと、誠に感謝申し上げます。当日の座談会でもお話ししましたが、やはり「まちづくり」は「人づくり」が出発点になっていると思います。

私は個人的には人を性善説で見えています。というのも、孫が生まれて、その瞳を見たとき「どうしてこんな瞳をしている人間が“悪いこと”を考えうるだろう」と思ったことに端を発します。

まだ何も知らない無垢な瞳を見てそう思うと同時に、これから生きていく「人」を形作るためのより良い環境を整えていくことは、大人としての使命であるとも考えます。

挨拶一つをとってもそうです。大人が率先して挨拶をしよう、その姿を子どもたちに見せていくことが、見ている子どもや実践している大人の徳を伸ばし、人を作っていくのだと思います。

「徳は孤ならず 必ず隣あり」という言葉があります。なかなか自分から実践しようとするのと照れや他人の目が気になります。その一歩が踏み出せないのですが、思い切って実行してみると、その行いに共感を抱いて下さる人が周りにいます。挨拶すると相手も気持ちが良いはず。その気持ちが伝わり広がっていく、そういう社会になればこれほど喜ばしいことはありません。

これまで先輩方と市民の皆様で築いてきた徳育の土壌と、そこに芽生え、成長してきた樹を、決して枯らすことなく耕し続けていく事で、これからの時代を担う子どもだけでなく、若者からお年寄りまで、感謝と思いやりの心が育まれていくことを信じています。これからも徳育の推進に携わっていただこうと思っています。

佐世保市前教育長

永元 太郎



経緯について若干補足しながら関係者の皆様にお礼申し上げたいと思います。

前半の懇話会としては、平田徳男先生、山崎滋夫先生、藤原善行先生の3人の学識者と行政職合わせて7人のメンバーで色々な観点から1年間5回の研究会、また全国で唯一市として「徳育」に取り組んでおられました静岡県袋井市への視察も行ったところでございます。

タイトなスケジュールでしたが、密度の高い議論を3人の先生方のご指導もあり進めることができました。市長に対し、この懇話会のまとめを平成22年2月に報告したところでございます。

後半の会議は、懇話会の中でも出ました「佐世保市徳育推進会議」を間をおかず平成22年3月に設置し、徳育推進の具体的な手法について検討していただき、指針としての「徳育推進の行動計画」を平成23年の11月には、市長に提言されました。メンバーとしては、教育、家庭教育、また社会教育関係の方々、宗教界等の14名の方々と平田先生にアドバイザーをお願いし発足したものです。宣言文案作成、推進母体の設立準備会等も入れますと、14回もの会議を精力的に進めていただきました。将来的な事業展開を考えたとき、このような会を設立できたこと、また多くのメンバーの方々に参加していただいたことは行政の考えも理解していただいたと思っており、難しい問題でありましたがエネルギーに動いていただき心より感謝申し上げます。



広辞苑によると、徳育とは「道徳面の教育」とあり、個々が社会の成員として人のふみ行うべき道の規範を身に付け、この社会の中で“より善く”生きるための教育であることを知ることができました。また「徳」には、「人を感化する人格の力」という意味もあり、人と人との関係の中の“より善い”人間関係を醸成させるべきものであり、「徳育の推進」とは、共生の中の重要なカテゴリーを育んでいくものだとの確信しております。

一方で、「徳」は個々人の内面的原理であることから、それぞれが経験や研鑽の中で培われていくものであります。もちろん、学校では道徳の教科化により道徳教育を通じて、一人一人の子ども達を“より善い”あり方に気付かせていくことが求められていることも大切なことです。

以上のことが今回のフォーラムにシンポジストとして参加させていただき学んだことでした。



今年度の徳育推進フォーラムのテーマが「徳育推進活動の新たな一歩のために」でしたので、第1回から関わってきた者として今回の座談会に参加させていただきました。

平成22年3月に徳育推進会議が14名のメンバーで発足しました。

“そもそも徳育とは？”から始まり、木村会長の指導の元で一步一步前進し、平成24年4月には「徳育推進まちづくり宣言」ができ、市役所前庭に記念碑を建立する事が出来ました。その記念碑の中の一文に「感謝と思いやりの心を持ち、自分を律し、勇気を持って社会や他人のために何かできる人となる事を目指します」とあります。まさにその通りで、私も「マナーとは相手を思いやる気持ちを形に表わしたものだ」と生徒達に教えております。

徳育推進フォーラムにおきましては、毎回“マナー講座”をしております。今回は“水引きの使い分け”“目上の方への心ばかりのお礼の上書きは？”等クイズ形式で会場の皆様と一緒に楽しませていただきました。

これからは、徳育推進の新たな一歩として、佐世保市民一人一人が「人のために何かできる人」を念頭に徳育推進活動が広まっていくことを願っております。



〈あいさつ〉  
朝長則男市長



〈マナー講座〉  
大鳥居祥子講師



〈佐世保市歌唱〉  
佐世保商工会議所女性会・みなとこども園園児

### ●座談会について

- ・三代の教育長がどのような考え方をもって教育行政に携わってこられたのかわかり、参考になった
- ・発せられる一つ一つの言葉に含みがあり、重みを感じるとともに、ユニークさも加わり、楽しさを味わえた
- ・小学生の頃に母親から挨拶については厳しくしつけられたことを思い出した。学校・地域の力が必要だが、何といっても親だなあとつくづく思った
- ・昔は普通に家庭で教えていたことが、今は家庭でできていないところが多く、学校等に頼らなければならぬ世の中になったのかなあと感じた

### ●徳育推進フォーラムや今後の徳育推進についての意見

- ・学校教育で道徳の授業を行い、そこで耕した子どもの心を行動へと繋げるのは家庭、地域の役割だと思う。家庭、地域が「どのように育てほしいのか」という目指すべきものを共有することが肝要であると思う。
- ・知らない方、通りすがりの方から、よくあいさつをされます。以前より多くなったような気がしています。少しずつだけ浸透していったと思う。
- ・時代の変化、年齢の違いで済ませてはいけません。生きていくためのルール、基本は今も昔も今からも変わらないと思う。

平成30年9月29日(土)  
550名が参加して盛大に開催された  
第9回徳育推進フォーラム、  
皆さま方からいただいた感想の  
一部を紹介いたします。

## あなたの聞いて「徳」する話 募集します!!

広報させば「徳育通信」コーナーから、あなたが身の周りで見つけたり感じたりした「聞いたら心が温まる話」を募集します!

日常のほんの小さなうれしい出来事や、ぜひ皆さんに聞いてほしい徳育に関するお話など、あなたの「聞いて「徳」する話」をお聞かせください!

採用された方のお話は、広報させば「徳育通信」コーナーに随時掲載させていただきます。

### ■応募方法

応募用紙に必要事項と400字以内のお話を書き込み、佐世保徳育推進会議事務局宛にお送りください。FAX・E-mailでの応募も受け付けております。また、ご質問・ご感想等もお待ちしております。応募用紙は佐世保徳育推進会議事務局ほか、佐世保市のHP、社会教育課で配布しております。

### ■ご不明な点はお気軽に質問ください。

佐世保徳育推進会議事務局

TEL/FAX (0956) 23-2856

E-mail sasebotokuiku@alpha.ocn.ne.jp

徳育啓発新聞「徳育」(本紙)のバックナンバーはコチラから。

フォーラムの歩み、地域での取り組みなど、徳育のヒントが盛りだくさんです!ぜひご覧ください!



## わが校の一徳運動



相浦小学校では、夏場の相浦川清掃を恒例行事として行っています。概ね一時間半程の活動ですが、毎回、総勢150名から200名もの参加があり、清らかな水流が保たれると共に、互いの親睦を深め合う貴重なきっかけをつくってくれています。

こうした一徳運動により、相浦地区の家紋、誇りであり、素朴で親しみのある相浦川を、子々孫々に伝え、美しい姿を残していくこと。そしてその中で、故郷のすばらしい自然や文化・伝統人との交わりを大切にしていこうとする子どもたちを育てていきたいと思っています。

相浦小学校 校長 犬塚 隆弘

相浦小学校では、夏場の相浦川清掃を恒例行事として行っています。家庭や地域を巻き込んだ、学校支援会議が大変充実しており、特に地域の方々の本校を想う愛着心、地域を大事にしていきたいという熱い心根には頭が下がります。その学校支援会議の組織の中に「地区部会」があり、本校校区の町内・自治会長様を中心として構成しています。そこが主体となって実施されているのが、この相浦川清掃活動です。

児童と保護者、教職員、そして地域の方々が一体となって取り組んでいます。概ね一時間半程の活動ですが、毎回、総勢150名から200名もの参加があり、清らかな水流が保たれると共に、互いの親睦を深め合う貴重なきっかけをつくってくれています。

こうした一徳運動により、相浦地区の家紋、誇りであり、素朴で親しみのある相浦川を、子々孫々に伝え、美しい姿を残していくこと。そしてその中で、故郷のすばらしい自然や文化・伝統人との交わりを大切にしていこうとする子どもたちを育てていきたいと思っています。

## わが社の一徳運動



株式会社 池田工業 常務取締役 池田 宗丈

私は、創業以来、地域密着から広域な範囲での総合建設業を営み、皆様に支えられ今日まで堅実な経営を続けています。

我が社が取り組んでいる内容として、毎月1日、15日は朝礼を実施し、社員全員で経営理念・社長方針を読み上げます。これは、社員一人一人が理念や方針を理解した上で、お客様の要望にお応えすることを第一に考えて行動する事を目的として行っています。

我が社の経営理念として、

1. 内部の雰囲気や士気を大事にし、明るく活力ある職場を目指す。
2. 技術と知恵を出し切って、新しく創造する。
3. 仕事を通じ、地域社会の発展に貢献する。

これからも、徳育推進を通して、地域社会に貢献すべく、社員としてお客様からいい企業だと思われるよう、日々努力を積み重ねていきたいと思っています。

## わが家の一徳運動

我が家、高三・高一・小六の三人息子です。長男が小学校入学して始めた、朝登校前の「ハイタッチ」を行います。最近は高校生二人がバタバタと早朝に登校し、三男は照れくさいのか手を合わせず登校するように、長年続けた「我が家の朝の挨拶」存続危機となりました。そこで私が考えた強行作戦、三男が登校した後に先回りし通学路で待ち構え、見守りもかねて登校する子供達みんなと朝のハイタッチを行います。こうなると三男もまぎれて手を合わせるしかありません(笑)地域の子供達と毎朝、顔と手を合わせ笑顔だったりそうできなかったり…子供達の日々の変化にも気づけて賛同のママ仲間も増え、まさに私にとって一徳な朝の挨拶です。

大塔小学校PTA 川口 昌子

我が家、高三・高一・小六の三人息子です。長男が小学校入学して始めた、朝登校前の「ハイタッチ」を行います。最近は高校生二人がバタバタと早朝に登校し、三男は照れくさいのか手を合わせず登校するように、長年続けた「我が家の朝の挨拶」存続危機となりました。そこで私が考えた強行作戦、三男が登校した後に先回りし通学路で待ち構え、見守りもかねて登校する子供達みんなと朝のハイタッチを行います。こうなると三男もまぎれて手を合わせるしかありません(笑)地域の子供達と毎朝、顔と手を合わせ笑顔だったりそうできなかったり…子供達の日々の変化にも気づけて賛同のママ仲間も増え、まさに私にとって一徳な朝の挨拶です。



## わが女性会の一徳運動



佐世保商工会議所女性会 十五代会長 池永 智恵子

佐世保商工会議所女性会は、現在五十三名の会員で、さまざまな活動を行っております。

本会の事業計画とし「佐世保市歌を歌い継ぐ事業」、「婚活事業」、「商活事業」の三大事業の他、市の清掃(空き缶回収キャンペーン)、十日恵比須大祭への支援、建国記念日奉祝行事へ参加するなど、地域経済社会へ貢献しております。

その一つに、毎年開催されております「徳育推進フォーラム」においては、市内の保育園・幼稚園の園児の皆さんと一緒に「佐世保市歌」を合唱しております。園児の皆さんはこの日の為に、園だけでなく、ご家庭でも練習をされておられます。佐世保市歌が大人から子供へと、歌い継がれていることを感じます。これからも佐世保の素晴らしさを歌い継いでいけたらと思います。

最後に、当女性会は来年八十周年を迎えます。これまで諸先輩方が築き上げられた歴史と伝統を崩すことなく新しい時代へ会員一同、切磋琢磨しながら、活動していきたいと思っています。

佐世保商工会議所女性会 十五代会長 池永 智恵子

佐世保商工会議所女性会は、現在五十三名の会員で、さまざまな活動を行っております。

本会の事業計画とし「佐世保市歌を歌い継ぐ事業」、「婚活事業」、「商活事業」の三大事業の他、市の清掃(空き缶回収キャンペーン)、十日恵比須大祭への支援、建国記念日奉祝行事へ参加するなど、地域経済社会へ貢献しております。

その一つに、毎年開催されております「徳育推進フォーラム」においては、市内の保育園・幼稚園の園児の皆さんと一緒に「佐世保市歌」を合唱しております。園児の皆さんはこの日の為に、園だけでなく、ご家庭でも練習をされておられます。佐世保市歌が大人から子供へと、歌い継がれていることを感じます。これからも佐世保の素晴らしさを歌い継いでいけたらと思います。

最後に、当女性会は来年八十周年を迎えます。これまで諸先輩方が築き上げられた歴史と伝統を崩すことなく新しい時代へ会員一同、切磋琢磨しながら、活動していきたいと思っています。

## 賛助会員を募集しています!!

賛助会員とは、佐世保徳育推進会議が推進する徳育推進事業の趣旨に賛同していただける方、また本会議の運営を支援していただける方のことをいいます。

- 佐世保徳育推進会議では当会の趣旨をご理解していただけるたくさんの賛助会員を募集しています。
- 会費(年会費・口数は自由です)
  - 個人…1口1,000円   ●法人・企業…1口5,000円
  - ご賛同いただける方には、入会手続き「賛助会員加入申込書」をお送りします。詳しくは当事務局へご連絡ください。

ソシアル淳心ファッションビジネス専門学校	佐世保商工会議所女性会	佐世保フロンティア法律事務所			
資古賀文具店	(有)立山印刷	小川正之	黒石英二	永石誠	角田隆一郎
萩原活	田中伸一郎	滝工業	河内秀之	岸川正博	匿名希望